



# 浜風

HAMAKAZE

12.9 vol.5

発行：青森県漁業士会  
青森県漁政課内  
TEL 017-734-9587  
編集：「浜風」編集委員会  
印刷：東北印刷工業(株)

## これからの漁業のために

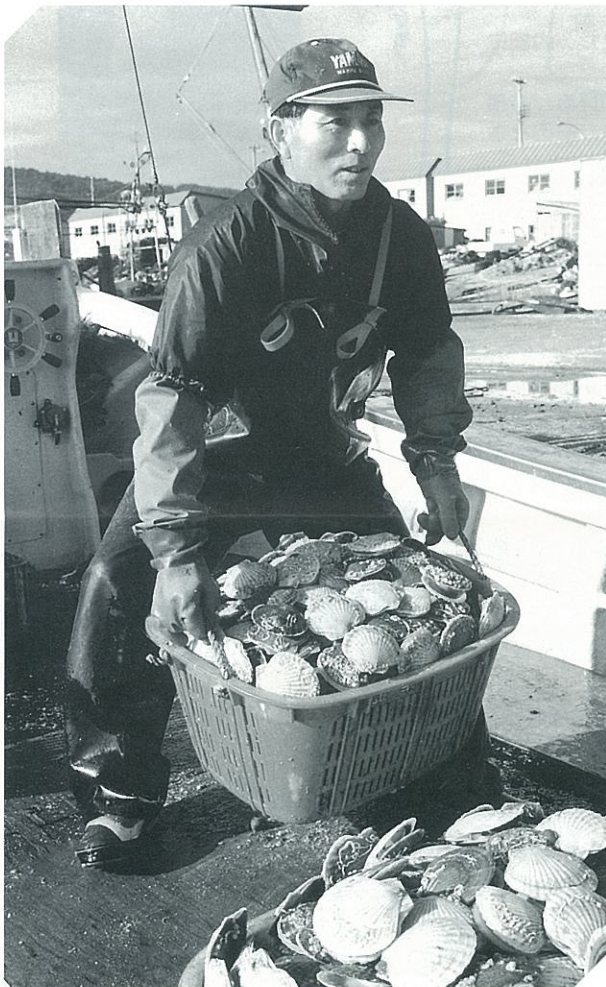
青森県漁業士会会長（平内町漁協東田沢支所） 福田 隆一



私が漁業士会に入ってから13年目になり、今度会長に選ばれ5月から仕事を始めましたが、漁をしながら会長職をする事は大変でびっくりしています。

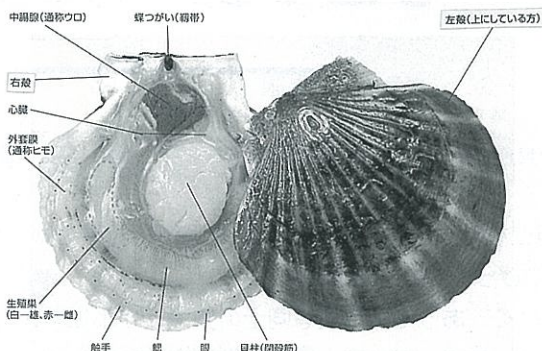
会を発足させた当時は交流も余りなく、あっても漁業者同士の交流とか市場関係の人などが多かったような気がします。今は農業、林業、衛生面、遊漁、海の環境などいろいろな分野の人達の交流が多くなって来ており、会長職も忙しくなっている様な気がします。この様な仕事も大事ですが、私は漁業そのものの経営とか、漁家の暮らしなどについて自分の子供達に大きな声で後を継げと言える様にするにはどうすれば良いかなど、実際に漁業者自身に役立つ勉強をするように漁業士会の活動方針を少しずつ変えて行きたいと思っております。

最後に私自身まだ会長一年生ですので水産部の皆さん、そして会員の皆さんの力を借りながら精いっぱい頑張りたいと思っております。よろしくお願い致します。



## 東青支部

### ほたてがいの各部の名称と特徴、働き



■**貝柱** 一体の中で最も大きい器官です。普通の二枚貝は貝柱が二ヶ所ありますが、ほたてがいの仲間には発生初期には二ヶ所にあり、大きくなると一方が退化します。ほたてがいが泳げるのはこの巨大な貝柱のおかげです。

■**生殖巣** ほたてがいの仲間は通常雌雄同体ですが、日本のほたてがいは雌雄異体です。産卵期が近付く十二月から四月頃には大きく膨らみ、雄は白色、雌は赤色となります。

■**外套膜** 通称ヒモと呼ばれ、貝殻を作る働きをしています。

■**眼** 外套膜の上に黒く点在しています。レンズや網膜などがあり、高等動物に匹敵するほど発達していますが、実際は光を感じる事くらいしかできないようです。

■**鰓** 海水中から餌を取り込んだり、呼吸する働きをしています。

■**心臓** ほたてがいの心臓は二心房一心室からなり、動脈と静脈が通っています。血液は無色透明です。

■**中腸腺** 通称ウロと呼ばれ、肝臓とすい臓の働きをしています。また、内部には胃があり、取り込まれた餌はこの胃で消化されます。

■**ほたてがいの貝毒** 陸奥湾のほたてがいには、春～秋季、下痢性の貝毒が蓄積されることがあります。これは、貝類の餌となっているプランクトンが原因とされていますが、主に、ほたてがいの中腸腺（上図参照）に蓄積されることから、中腸腺を除去すれば安全です。

～ほたて流通振興協会「青森ほたてのはなし」より～

## かつ支部のイチ押し!

### 脇野沢村の焼き干しイワシ

脇野沢村青年漁業士 中村 有男  
脇野沢村の特産品である焼き干しイワシは、毎年、9月後半から10月末までの、ちょうど気温が涼しくなる頃に生産されます。

まず、漁獲したカタクチイワシの、頭、はらわた、鱗をきれいに取り、簀の子で天日干し後、竹串に通し、炭火で、軽く焦げ目がつくまで両面を焼きます。焼き上がったものは、乾燥機で3日程かけて乾燥させて仕上げます。

この焼き干しイワシを粉末にし、麺とブレンドしてつくった焼き干しラーメンは、煮てもよし、中華ざるにしても良しの逸品です。ぜひ一度おためしください。

※お問い合わせ先:

〒039-5300

下北郡脇野沢村本村227番地

マリンハウス脇野沢

TEL & FAX 0175-44-3333



## むつ支部

### 関根浜でむつ支部会管内交流会を開催

去る6月12日(月)、海洋地球研究船「みらい」の入港に合わせて、海洋科学技術センターむつ事務所において管内交流会が行われました。むつ支部会会員20名を始め、地元の関根浜底建網部会会員10名、関係市町村、県など総勢37名が参加しました。

研修ではビデオで施設、調査の概要等を視聴した後、研究船「みらい」及び観測機材の説明を受けました。

赤道域に設置された海洋観測ブイ「トライトンブイ」から寄せられる膨大なデータがコンピュータに映し出され、青森県にいながらにして赤道域の海の様子が分かることに、大変驚きを感じました。



### 尻労小学校で水産教室開催

去る6月24日(土)、尻労漁業協同組合において、尻労小学校生徒による水産教室が行われました。

生徒からは魚などに関する難問が出され、大人たちは回答に苦労していました。その後の「魚とのふれあいタイム」は、生け簀に入ったホタテやヒラメ等を釣りあげ、飛び跳ねていました。

生徒はもちろん先生や父兄も大変喜んでおり、非常に楽しい一日でした。

むつ支部会ではこの後も数ヶ所で水産教室が開催されます。



## 日本海支部

### 森と海づくり運動・記念植樹

(深浦町<sup>へふし</sup> 清滝展望台)

子供達へ豊かな海の資源をいつまで

日本海支部 八木沢健一

森と川と海の絆を大切にす機運の高まりを受けて、漁業・林業関係者をはじめとする県民が、美しい自然、住み良い郷土、豊かな海を守るため、西海岸では全国育樹祭を契機に平成9年に追良瀬地区で植樹が行われました。以後、10年には大戸瀬、11年には風合瀬で行う等、深浦町管内の3海面漁協、及び内水面漁協で行ってきました。

本年度も、5月27日(土)漁業者の手による植樹をしました。植林箇所は<sup>へふし</sup>船作崎台からウエスパ椿山方面へ1.2km地点の山腹で、水源涵養林としての機能を期待していますが、一部では魚付け林や防風林等としての機能も付与しています。当日は県漁政課杉沢参事、深浦町長ほか約100名が参加しました。また、展望台の入口には記念植樹碑が建てられております。

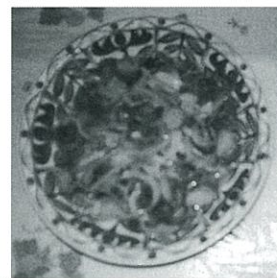


## 東青支部のイチ押し!

### ホタテマリネ

《材料》

- ・ホタテ(生でも、ボイルでも良い)
- ・玉ネギ…2個
- ・人参…1本
- ・ピーマン…2個
- ・片栗粉
- ・マリネソース
- (酢120cc、サラダ油120cc、塩小2)



【作り方】

- ①ホタテは半分にして、水気を取り片栗粉を全体にまぶしておきます。
- ②野菜は細かい千切りにして、水気を取ってから、マリネソースを良く混ぜ合わせ、その中に野菜をつけ込みます。
- ③ホタテは180℃~200℃に熱した油でカラッと揚げます。
- ④揚げたホタテを、つけ込んでおいた野菜を重ね重ねとり返して盛りつけします。

野菜とつけ込んだホタテは器に入れて冷やしていただきます。

製作協力：平内町漁業協同組合婦人部

## 三八支部

今年三八地域では春から夏にかけてヒラメがかつてない不漁に見舞われています。刺網を入れても2、3尾しかかかっていないという日が続き、キロ40円ぐらいのヒラツメガニが多くかかり、漁にならない状況です。

## 三八支部のイチ押し!

### ホッキガイ

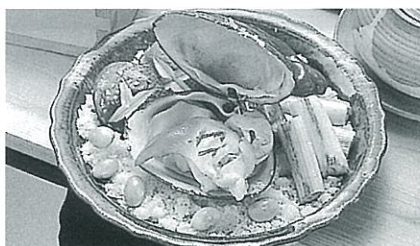


三八地域の水産物についてはサケ、イカ等色々ありますが、三八地域だけのものと言えばホッキガイでしょう。ホッキガイは高級食材として寿司ネタや刺身などになっていますが、実はしゃぶしゃぶがすごくおいしいのです。刺身だとちょっと苦手という人でもしゃぶしゃぶにすると一人で5個も10個も食べてしまうほどです。火を通しすぎると堅くなるので、少し色が変わる程度に湯をくぐらせ、「ゆずポン」などをつけて食べるとうめられせん。ぜひ食べてみてください。

### 塩焼き

●材料 ホッキ貝4個、塩少々、葱1/2、生しいたけ4枚、ピーマン2ヶ

COOKING ①ホッキ貝は下ごしらえをして塩をふり魚焼器で焼きます。②葱のぶつ切りや生しいたけ、ピーマンも焼いて添えます。



### ホッキご飯

●材料 米4カップ、水4カップ、塩小さじ1、ホッキ貝4個、酒大さじ1、しょうゆ大さじ3、さとう大さじ1、生姜甘酢漬20g、錦糸卵(卵1ヶ、塩少々、油少々)、木の芽少々

COOKING ①米は洗って分量の水と塩を加えておきます。②ホッキ貝は下ごしらえをして細かく切り、酒・しょうゆ・さとうでさっと煮て、汁は米に加えて普通に飯に炊き蒸し上りにホッキ貝を加えます。③器に盛り、生姜の甘酢漬や卵を薄焼きにして細切りにした錦糸卵、又季節の木の芽等を添えます。

～北浜海域ほっき貝資源対策協議会

「ホッキ貝料理読本」より～



# 漁業士海外研修

## 豪快なマグロ漁

鯨ヶ森漁協

青年漁業士 竹林 雅史

初めての海外、15時間の空の旅もたいした苦にならず、ローマ空港に到着。翌日はローマ観光。「コインを後ろ向きで投げ入れると、再びローマに戻れる。」と言い伝えがあるトレヴィの泉。紀元前6世紀頃から、政治、商業、宗教の中心として栄えたフォロロマーノ。真実の口、ジャンニコの丘と、どこを覗いても巨大な歴史、永遠の都。いつの時代にも人々を魅了してきた街だと実感しました。2日目からは本題である研修の始まりです。

一行はローマからパレルモへ、マッサラデルバツォ国立水産研究所視察に向かいました。マグロー一本釣りは2500年前から、定置網は12世紀頃からアラブ人によって始められたことを聞きました。その後、FAOから送られたビデオを見ました。ファヴィニャーナ島のマグロ定置で、600~700本のマグロを50人の乗組員が手カギで1本ずつ引き上げている様子は豪快でした。船頭が手漕ぎの小さな船に乗り、祈りを捧げ、乗組員が歌う様子は感動的でした。

次の日はトラパニから水中翼船でファヴィニャーナ島へ15分、島に到着後、定置網漁業の船頭が模型を使ってマグロ定置網漁業の概要を説明してくれました。日本の一般的な定置網を説明したところ、興味深く見入っていました。これから、ダイバーが定置網に入網したマグロを見に行くとのことで、一緒に船に乗せてもらい漁場へ行くことができました。マグロは見れませんが、ダイバーの話によると50kg台が100尾程いたそうです。

最後に、お土産に日本から持参した大漁旗がとても喜ばれました。日本の漁業と比べて、網資材、船、設備はかなり遅れていますが、ここでは、これで良いとの船頭の言葉に意味深いものを感じました。言葉は違っても同じ漁業に携わる人とは通じ合えるものを感じました。機会があれば、長靴、合羽持参で手伝いに行きたいと思います。

今回の研修にあたり、県、関係者各位には大変お世話になりました。漁業士会会員の海上安全と大漁をお祈りいたしまして、お礼とさせていただきます。

## 言葉が通じなくても

## お互い漁師どうし

八戸市南浜漁協

指導漁業士 田中 三千男

私たち一行は、6月26日ローマからシチリアへ移動し、午後から国立研究所で教授から講義を受けました。自国の水産資源管理、国境間で共有する魚の資源調査等、研究所での仕事の内容を伺いました。近年では魚が小さくなり、魚種によっては全く獲れなくなっている魚もあり、そのため研究所では大幅な漁業規制が必要であるという提言をしているとのことでした。

また、漁業組合で聞いたところでは、資源保護のため規制を強化し、一定期間の漁業規制をしているとのことでしたが、自己申告ではあるけれども申告によって政府により一定の生活保障があると聞き、大変良いことだと思いました。

3日目、目的のマグロ定置網の見学です。しかし、残念ながら漁期が終わっていて、現場に入ってみると道網を取り上げ終わり、袋網だけが入っているとのことでした。網の仕組みの説明を受けた後、船で沖に出て残っている網を見学したところ、50kgのマグロが100本ぐらい入っているという話でした。いろいろ漁の話を知ると、年々漁獲が減っているとのことでした。不漁の原因はいろいろあるが、一番の原因は網の側がフェリーの航路になっていて、数分おきに船が通過することであるとのことでした。

今回の研修では、言葉が通じなくてもお互い漁師どうし気持ちが通じ合ったと自分では解釈しました。ただ、今回見学した漁法が日本でそのままできるかといえば、現実にはできないと思いました。この漁法は何百年という伝統の漁法であり、観光資源等としても、今後も残していつてもらいたいと思います。

最後に今回の研修を振り返り、関係者の皆さんに感謝申し上げます。

## イタリア・シチリア島の主な視察先の概要について

鯨ヶ沢地方水産業改良普及所

総括主査 中田 健一

今回、八戸市南浜の田中氏を含めた4名の指導・青年漁業士と私は、マグロ漁業等の視察研修のためイタリア・シチリア島に行きました。

シチリアはイタリアの漁業生産量の約1/4を占める等、水産業の中心的地域であります。また、市場には地中海や北アフリカ、大西洋産の魚が入荷し、マグロ類をはじめ魚介類の豊富な所です。当地でのマグロ漁業は延縄漁業と定置網漁業が主な漁法です。また、パレルモ市の周辺には漁村が数多く点在し、漁業者が産地直売店や浜で魚や加工品を売る風景、網や漁船を修理する風景を数多く見学しました。

マグロ集積地のトラパニ市の沖合にあるファヴィニャーナ島では、マグロ定置網漁業を視察しました。定置網の頭領(ライス)から1/20の正確な模型を使って定置網の概要について熱心な説明を受けた後、漁法や網の構造、網の設置状況等について技術交流を行いました。

また、水深32mに設置された定置網には50kg以上のマグロが約100尾入網しており、これらは12月まで養殖してから出荷するとのことでした。先に訪問したイタリア漁業協同組合のバスチアーノ副組合長によれば、漁業者が直接日本にマグロを輸出したいとの意向でした。なお、大西洋クロマグロは5月~6月中旬には、シチリア周辺海域に産卵のため回遊してきますが、潮の条件等が良い場合は1日で300kg級のクロマグロが700尾も漁獲されることもあるそうです。



○視察先の日程

月日	視察先	地区
6/26 (月)	マッサラデルバツォ国立水産研究所	マッサラデルバツォ
6/27 (火)	パレルモ中央市場 ムール貝養殖場 モンデーロ漁港周辺	パレルモ パレルモ モンデーロ
6/28 (水)	イタリア漁業協同組合トラパニ支所 トラパニ産地直販市場	トラパニ トラパニ
6/29 (木)	トラパニ魚市場 マグロ定置網漁業視察	トラパニ ファヴィニャーナ島
6/30 (金)	FAO(国際連合食糧農業機関水産局)視察 フミチーノ漁港	ローマ フミチーノ

# ローマ・シチリア紀行



大畑町漁協

指導漁業士 浜田 照 男

ローマ・シチリアの研修に選考され、6月には出発と聞き、実際のところ慌ててしまう。

仕事の調整をつけながら、パスポートの準備、身支度など忙しく準備をこなす。

実は飛行機は初めてで多少不安を感じる。

出発の日、青森空港で同行の仲間と一緒にいるが、それぞれ不安と期待が交錯した様な顔である。漁政課の見送りを受け、出発。

成田までのフライトは何事もなく胸をなで下ろす。成田での夜、仲間とビールで盛大に出発祝い、これから先の不安を払拭。

フライト15時間、途中ミラノに降りるがローマまではさすがに遠い。皆寝不足。

翌日のローマ観光では日本人やチャイニーズが多く、日本の観光地にいるような錯覚さえ感じる。

目的のシチリアのマグロ漁については、別のレポートで詳しく述べるとして、イタリアでも、地元研究機関(NCR)やFAOなどと地元漁民とのギャップが大きく、漁協が仲介と指導を行っているのは日本と同様であると感じる。さらに、イタリアはEUの指示も受ける事になり、難しい問題を抱えている国だと思う。

研修では地元漁業者と意気投合し、シチリア観光をスケジュールから外し、市場・港・漁船・漁具等を重点的に見る(同行の通訳、運転手氏に感謝)。

イタリアの9泊中、食事は日を追う毎に美味しくなり、スパゲッティ、パスタ、ピザの多様な食べ方に感心(日本の味であった)。特に魚介類のトマトソース仕立ての雑魚汁は美味しかった。しかし、ホテルの朝食には閉口。

毎日パン食で飽きてしまい、ミルクだけにした日もあった。

シチリアでの研修を終え、ローマへ移動。国連の議事堂を見てローマにいることを実感した。

すべての研修を終えて残り2日、ショッピングやナポリ・ポンペイ観光ツアーに参加(土産を買い込む)。

ローマに帰り、慌ただしく帰りの準備にかかる。

今回の研修は気心の知れた同士のおかげで非常に実のあるものになった。通訳氏に感謝。

最後に、この研修に参加させてくれた皆様に心よりお礼を申し上げます。



## イタリア共和国

### シチリア州 SICILIA

鯨ヶ沢漁協

青年漁業士 八木沢 健一

長靴に蹴飛ばされたような形でイタリアのつま先に浮かぶシチリア島は、地中海で最も大きな島。

東北部にあるエトナ山(3,340m)を最高峰として、全体に山がちで岩が多く土地がやせている。冬でも温暖な気候を生かした柑橘類の栽培などの農業が主な産業となっているほか漁業も盛んである。

地中海の要衝であるため、様々な民族の支配を受けてきたこの島には、ギリシャ、ローマ、フランス、ビザンチン、アラブ、ノルマン、ドイツ、スペインなどの文化的影響が色濃い遺跡や、珍しい風習が残る。

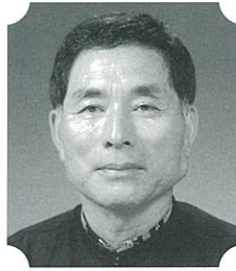
イタリアには11の水産研究機関があり、1984年から各研究所では適正な漁獲(持続可能量)をテーマに地中海及び北アフリカの環境保全と漁業資源調査を協同で行っている。

最近の環境に対する関心の高まりと漁業に対する圧力、国連やFAOの新しい諸条件や国際取決め等は、公海漁業の厳しい管理を求めている。

資源管理は常に前もって最悪の状態を考えて行うことが必要であると思われる。こうした諸条件が、満たされて、はじめて漁業の存在が将来も可能となるのではないか。



# 新役員 紹介



新任

会長 福田 隆一 (平内町漁協)

会長に就任して、まだ日は浅いのですが、東北・北海道ブロック研修に出席したことなどを通じて、青森県漁業士会のレベルの高さを感じています。本会を更に良いものとするために努力しますので、皆様のご協力のほど、よろしくお願いいたします。



新任

副会長 山縣 勝彦 (野辺地町漁協)

青年漁業士になって、まだ、日が浅い私ですが、副会長の指名をいただいて恐縮です。先輩からいろいろなことを学びみんなの力になればと思っています。そしてもっと漁業士会活動を広めていきたいと考えています。



新任

理事 木村 慶造 (百石漁協)

この度、県漁業士会執行部の一員として参加する事になり責任を感じている第です。私は遠洋漁業は30余年の経験はありますが沿岸漁業はキャリアも浅く今は何事も勉強です。

今後共皆様方のご指導をよろしくお願い致します。



理事 畑中 道安 (むつ市漁協)

私は青森県指導漁業士になり3年が過ぎました。むつ支部会の活動の中で小学生を対象にした水産教室を実施しました。今回むつ市立若生小学校でホタテ養殖及びホタテ漁に関係することについて5年生を対象に行いました。

海水、温度、ホタテの生態と数多く質問が出ました。私自身大変勉強になりました。漁業士会活動の中で子供達に対する水産教室の重要性を実感しました。



監事 奥川 三治 (関根浜漁協)

関根浜漁協の奥川です。

今回も宜しく。

近年、当前浜では大型のヒラメが採れています。6月30日現在、最大16.8kgです。



新任

監事 石岡 清美 (赤石水産漁協)

漁業士認定を受け、12年が過ぎ、ようやく漁業士活動にもなれた様な気がします。

これからは、県内各地区漁業士の皆さんと積極的に情報交換をし、今後の漁業のあり方を勉強していきたいと思えます。

今後とも宜しく願います。



新任

副会長 山口 隆治 (後潟漁協)

私こと山口隆治は、この5月16日をもって青森県漁業士会会長を終えることができました。これも、会員はもとより関係機関の皆様のご指導とご協力があった賜物と、心から感謝申し上げます。この6年間の経験を生かして、組合を含むこれからの仕事を一生懸命頑張るつもりですので、今後共ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。なお、県漁業士会の方は福田隆一会長を中心に、会長が目指している漁業士会日本一を目標に頑張りたいと思います。

「浜風」を持ってお礼に代えさせていただきます。



理事 荒木田政信 (南浜漁協)

今年2月に行われました三八支部の総会で、三八漁業士会長に再任されました。今後ともよろしくお願いいたします。



新任

理事 濱谷 一二 (横浜町漁協)

2月のむつ支部会総会で小笠原前会長の後任となりました。川端前々会長、小笠原前会長のお二方は大きな功績を残された方々なので、私は大変責任を感じております。一生懸命がんばりますので、会員皆様のご協力をお願いいたします。



新任

理事 山下 幸彦 (大戸瀬漁協)

一部金融機関の破綻により早期是正措置が講じられています。又、信用事業を行う漁協への常勤役員等の兼職、兼業の制限は、考え方によっては全く漁業経験のない人でも役員ができるともれます。

仮に、役員になれたとしても漁業の事を知らない人がはたして、漁協の末端である私達漁業者の立場になった組合経営ができるのか疑問に思えます。

漁業者皆が安心して生活できるような方法をとってほしいですね。



監事 船橋 正彦 (平内町漁協)

平内町漁協に所属しています。東青支部の船橋です。

県漁業士会がますます発展します様、3代目・福田新会長といっしょに全力を尽くしますのでよろしくお願い致します。

## 編集後記

この度、初めて浜風の編集に携わり、いろいろと難しいこともありましたが、皆様のご協力のおかげで、無事発行する事ができました。今後も、皆様が読みたいと思うような魅力的なものを創っていきたく思います。(記: 普及育成班 篠原 由香)

連絡先: むつ支部 0175-22-8626  
三八支部 0178-27-5858  
日本海支部 0173-72-4300  
東青支部 017-774-0772  
漁政課 017-734-9587